

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

02.12.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年11月26日
Date of Application:

出願番号 特願2003-396303
Application Number:
[ST. 10/C] : [JP2003-396303]

出願人 三洋電機株式会社
Applicant(s):

2005年 1月20日

特許長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川

洋

【書類名】 特許願
【整理番号】 JJC1030173
【特記事項】 特許法第30条第1項の規定の適用を受けようとする特許出願
【提出日】 平成15年11月26日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 H04B 7/26
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府大東市三洋町1番1号 三洋テレコミュニケーションズ株式会社内
【氏名】 種谷 祐一
【発明者】
【住所又は居所】 大阪市東淀川区東中島1丁目18番5号 株式会社システム・デザイン・ジャパン内
【氏名】 中本 和夫
【発明者】
【住所又は居所】 大阪市淀川区西中島1丁目11-16 新日本コンピュータマネジメント株式会社内
【氏名】 徳山 幸平
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府大東市三洋町1番1号 三洋テレコミュニケーションズ株式会社内
【氏名】 中野 善之
【特許出願人】
【識別番号】 000001889
【氏名又は名称】 三洋電機株式会社
【特許出願人】
【識別番号】 301023711
【氏名又は名称】 三洋テレコミュニケーションズ株式会社
【代理人】
【識別番号】 100090446
【弁理士】
【氏名又は名称】 中島 司朗
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 014823
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9004596
【包括委任状番号】 0108187

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

解像度の異なる第1表示画面と第2表示画面とを有する開閉自在な携帯電話機であって

外部サーバから取得したコンテンツを記憶する記憶手段と、

開状態で第1表示画面に前記記憶手段に記憶されたコンテンツの所望の1ページを読み出して表示し、閉状態で第1表示画面よりも解像度の低い第2表示画面に同一ページを読み出して表示する表示制御手段とを備えることを特徴とする携帯電話機。

【請求項 2】

携帯電話機が開状態か閉状態かを検出する検出手段を更に備え、

前記表示制御手段は、

第1表示画面のサイズに対応した第1記憶部と、

第2表示画面のサイズに対応した第2記憶部とを有し、

前記検出手段から開状態であるとの通知を受けたとき、前記記憶手段から所望の1ページを読み出し、第1記憶部にビットマップデータとして展開し、第1表示画面に表示し、

前記検出手段から閉状態であるとの通知を受けたとき、前記記憶手段から所望の1ページを読み出し、第2記憶部にビットマップデータとして展開し、第2表示画面に表示することを特徴とする請求項1記載の携帯電話機。

【請求項 3】

前記表示制御手段は、

前記第1記憶部にビットマップデータとして展開する文字を前記記憶手段に記憶されたコンテンツの表示情報で指定されるサイズとし、

前記第2記憶部にビットマップデータとして展開する文字を前記表示情報で指定される最小サイズに変更することを特徴とする請求項2記載の携帯電話機。

【請求項 4】

前記表示情報で指定されるサイズは 36×36 ドット若しくは 26×26 ドット若しくは 18×18 ドット又は 12×12 ドットであり、

前記最小サイズは 12×12 ドットであることを特徴とする請求項3記載の携帯電話機。

。

【請求項 5】

前記表示制御部は、

前記第2記憶部にビットマップデータとして展開する画像のサイズが第2記憶部のサイズよりも大きいとき、第2記憶部に収容できるサイズの画像に縮小することを特徴とする請求項2記載の携帯電話機。

【請求項 6】

前記記憶手段に記憶されるコンテンツは、公衆回線網を介して取得されるWebサイトのホームページのコンテンツであることを特徴とする請求項1記載の携帯電話機。

【請求項 7】

前記第2表示画面と同一面には、第2表示画面に表示されたページ上のリンクを指定する5接点キーが設けられていることを特徴とする請求項6記載の携帯電話機。

【請求項 8】

解像度の異なる第1表示画面と第2表示画面とを有する開閉自在の携帯電話機の画面切換方法であって、

外部サーバから取得したコンテンツを記憶する記憶ステップと、

開状態で第1表示画面に前記記憶ステップに記憶されたコンテンツの所望の1ページを読み出して表示し、閉状態で第1表示画面よりも解像度の低い第2表示画面に同一ページを読み出して表示する表示制御ステップとを有することを特徴とする携帯電話機の画面切換方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】携帯電話機及び携帯電話機の画面切換方法。

【技術分野】

【0001】

本発明は、携帯電話機に関し、特に解像度の異なる2画面の画面切換技術に関する。

【背景技術】

【0002】

携帯電話機の発達は目ざましく、通話機能に加えてWebサイトにアクセスし、そのホームページをメイン画面に表示することができる。また、携帯電話機は折り畳み式が主流となっている。折り畳み式の携帯電話機では、メイン画面の他にフリップを閉じた状態で、その表面にもサブ画面が設けられている。

ところで、メイン画面は、例えば240×320ドットの大きさを有するが、サブ画面では120×160ドットの大きさでしかない。

【0003】

そのため、従来Webのサイトにアクセスし、ホームページを表示するのは、メイン画面に限られている。仮に、サブ画面に取得したホームページを表示しようとすると、メイン画面に表示した文字サイズを小さく変更した文字を表示する必要がある。この場合、再度Webのサイトにアクセスし、ホームページを取得し、サブ画面に小さく変更した文字サイズで表示しなければならない。これは、ブラウザが表示する画面サイズに対応した表示しかできないからである。

【0004】

なお、メイン画面とサブ画面の表示制御に関しては、例えば、特許文献1、2がある。

【特許文献1】特開平10-13288号公報

【特許文献2】特開2003-298703号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところが、従来のようにメイン画面とサブ画面とで同一のページを表示しようとする、メイン画面とサブ画面とでその画面サイズ、即ち、解像度が異なっているときには、再度コンテンツの取得を要するので、Webサイトとの通信が必要となる。

そこで、本発明は、上記課題に鑑みなされたものであり、再度コンテンツを取得することなく、メイン画面にも、サブ画面にも所望のページを表示することのできる携帯電話機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するため、本発明は、解像度の異なる第1表示画面と第2表示画面とを有する開閉自在な携帯電話機であって、外部サーバから取得したコンテンツを記憶する記憶手段と、開状態で第1表示画面に前記記憶手段に記憶されたコンテンツの所望の1ページを読み出して表示し、閉状態で第1表示画面よりも解像度の低い第2表示画面に同一ページを読み出して表示する表示制御手段とを備えることとしている。

【発明の効果】

【0007】

上述のような構成によって、メイン画面である第1表示画面に表示したものと同一のページをサブ画面である第2表示画面にも携帯電話機の開閉状態に応じて表示することができる。したがって、第1表示画面に表示したページの情報を再度通信によって取得するこなく第2表示画面に表示させることができる。この結果、通信費の無駄を省くことができる。

【0008】

また、携帯電話機が開状態か閉状態かを検出する検出手段を更に備え、前記表示制御手段は、第1表示画面のサイズに対応した第1記憶部と、第2表示画面のサイズに対応した

第2記憶部とを有し、前記検出手段から開状態であるとの通知を受けたとき、前記記憶手段から所望の1ページを読み出し、第1記憶部にビットマップデータとして展開し、第1表示画面に表示し、前記検出手段から閉状態であるとの通知を受けたとき、前記記憶手段から所望の1ページを読み出し、第2記憶部にビットマップデータとして展開し、第2表示画面に表示することとしている。

【0009】

このような構成によって、携帯電話機の開閉状態に応じた第1表示画面又は第2表示画面に取得したコンテンツのページを表示することができ、携帯電話機を閉じた状態でも、第2表示画面に所望のページを表示させることができる。

また、前記表示制御手段は、前記第1記憶部にビットマップデータとして展開する文字を前記記憶手段に記憶されたコンテンツの表示情報で指定されるサイズとし、前記第2記憶部にビットマップデータとして展開する文字を前記表示情報で指定される最小サイズに変更することとしている。

【0010】

このような構成によって、サイズの小さい第2表示画面にも、第1表示画面の文字より小さくして表示することができる。

また、前記表示情報で指定されるサイズは 36×36 ドット若しくは 26×26 ドット若しくは 18×18 ドット又は 12×12 ドットであり、前記最小サイズは 12×12 ドットであることとしている。

【0011】

このような構成によって、第2表示画面には、 12×12 ドットの文字が表示される。

また、前記表示制御部は、前記第2記憶部にビットマップデータとして展開する画像のサイズが第2記憶部のサイズよりも大きいとき、第2記憶部に収容できるサイズの画像に縮小することとしている。

このような構成によって、小さいサイズの第2表示画面にも第1表示画面と同様の内容を表示することができる。

【0012】

また、前記記憶手段に記憶されるコンテンツは、公衆回線網を介して取得されるWebサイトのホームページのコンテンツであることとしている。

このような構成によって、外部のWebサイトに一度のアクセスをするだけで、コンテンツを取得し、第1表示画面又は第2表示画面のいずれかに所望のページを表示できるので、無駄な通信費を負担することを免れる。

【0013】

また、前記第2表示画面と同一面には、第2表示画面に表示されたページ上のリンクを指定する5接点キーが設けられていることとしている。

このような構成によって、携帯電話機を閉じた状態でも、第2表示画面でいわゆるネットサーフィンを楽しむことができる。

また、解像度の異なる第1表示画面と第2表示画面とを有する開閉自在の携帯電話機の画面切換方法であって、外部サーバから取得したコンテンツを記憶する記憶ステップと、開状態で第1表示画面に前記記憶ステップに記憶されたコンテンツの所望の1ページを読み出して表示し、閉状態で第1表示画面よりも解像度の低い第2表示画面に同一ページを読み出して表示する表示制御ステップとを有することとしている。

【0014】

このような方法によって、メイン画面である第1表示画面に表示したと同一のページをサブ画面である第2表示画面にも、余分な通信をすることなく表示することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、本発明に係る携帯電話機の実施の形態について、図面を用いて説明する。

(一実施の形態)

図1は、本発明に係る携帯電話機の一実施の形態の開状態を示す正面図である。

携帯電話機101は、本体102と、本体102に折り畳み自在のフリップ103とかなる。本体102には、操作キー群104とマイク105とが設けられている。フリップ103には、第1表示部106とスピーカ107とが設けられている。

【0016】

フリップ103の背面には、第1表示部106よりも解像度の低い第2表示部が設けられている。

図2は、フリップ103を折り畳んだ携帯電話機101の閉状態を示す斜視図である。

フリップ103には、第2表示部201と操作キー202とが設けられている。本体102の上方には、アンテナ203が伸縮自在に設けられている。また、本体側面204には、サイドキー205が設けられている。

【0017】

図3は、この携帯電話機の構成図である。

携帯電話機101は、アンテナ203と、デュープレクサ301と、受信部302と、送信部303と、制御部304と、マイク105と、スピーカ107と、記憶部305と、操作部306と、開閉検出部307と、第1表示部106と、第2表示部201と、表示制御部308とを備えている。

【0018】

アンテナ203は、基地局（図示せず）と通信を行う。アンテナ203で受信された信号は、デュープレクサ301に出力される。デュープレクサ301から入力された信号を基地局に送信する。

デュープレクサ301は、アンテナで受信された信号を受信部302に出力し、送信部303から入力された信号をアンテナ203に出力する。

【0019】

受信部302は、デュープレクサ301から入力された信号を復調し、制御部304に通知する。

送信部303は、制御部304から通知された信号を変調してデュープレクサ301に出力する。制御部304からの通知が、Webのサーバへのアクセス指示であるときには、指示されたサイトにアクセスし、コンテンツの送信要求をする。

【0020】

制御部304は、受信部302から通知された信号を解釈し、音声信号はスピーカ107に出力し、外部のサーバから取得されたコンテンツは記憶部305に記憶させる。制御部304は、マイク105から入力される音声を処理し、音声信号に変換し、送信部303に出力する。

また、制御部304は、操作部306から通知される操作キーの操作信号を解釈し、送信部303にデータ信号を出力する。

【0021】

制御部304は、操作部306から選択項目の通知を受けると、表示制御部308にその項目を通知する。表示制御部308から、リンク情報の通知を受けると、送信部303にそのリンク情報に示される外部のWebのサーバにアクセスするよう指示する。

なお、制御部304は、携帯電話機101の各部を制御している。

マイク105は、ユーザの通話音声を集音し、制御部304に出力する。

【0022】

スピーカ107は、携帯電話機101の通話相手から受信した通話内容を音声出力する。また、制御部304等で生成された音声を出力する。

記憶部305は、RAM等で構成され、Webのサーバから取得されたコンテンツを記憶している。このコンテンツには、ホームページの各ページを記載したHTML文書や画像データが含まれる。なお、画像データは添付ファイルの形式で記憶されている場合もある。

【0023】

操作部306は、操作キー群104と操作キー202とサイドキー205とで構成され

、ユーザの指示を操作キーの操作として受け付ける。操作部306は、操作信号を制御部304に通知する。

また、操作部306は、第1表示部106又は第2表示部201に表示された内容から選択項目の選択をユーザから受けると、制御部304に通知する。

【0024】

なお、第2表示部201での選択項目の選択は5接点キーである操作キー202によってなされる。

開閉検出部307は、携帯電話機101のフリップ103が閉じられた状態の閉状態か(図2の状態)、フリップ103が開かれた状態の開状態かを検出して、表示制御部308に通知する。なお、開状態は、図1に示すように、完全にフリップ103が開かれた状態だけでなく、折り畳まれた中間状態(図2の状態以外)を含むものとする。

【0025】

表示制御部308は、第1表示部106のサイズに対応する第1記憶領域と、第2表示部201のサイズに対応する第2記憶領域とを有している。これらの記憶領域は、記憶部305に記憶されているコンテンツのページを第1表示部106又は第2表示部201に表示する際、そのページの内容を読み出し、ビットマップデータとして展開するための領域である。

【0026】

表示制御部308は、操作部306から項目の通知を制御部304を介して通知されるとき、記憶部305に記憶されている表示中のページの当該項目のリンクが当該ページの含まれるコンテンツ内であるか、外部のコンテンツであるかを判断する。コンテンツ内のときは、リンク先のページを記憶部305から読み出す。開閉検出部307から開状態と通知されているときは、第1記憶領域に読み出したページをビットマップデータに展開し、第1表示部106に表示する。

【0027】

開閉検出部307から閉状態と通知されているときは、ページに含まれる文字を最小の文字サイズ、例えば 12×12 ドットに変更して、第2記憶領域に読み出したページをビットマップデータに展開し、第2表示部201に表示する。

なお、読み出したページに含まれる文字のサイズは、表示画面のサイズによって、コンテンツの表示情報として相対的に記載されており、極大、大きめ、小さめ、極小として、例えば、 36×36 ドット、 26×26 ドット、 18×18 ドット又は 12×12 ドットとそれぞれ規定されている。第1表示部106での表示は、この表示情報に従い第1記憶領域にビットマップデータとして展開される。

【0028】

表示制御部308は、リンクが記憶部305に記憶されているコンテンツ以外であるとき、判断したときは、制御部304にリンク情報を通知する。リンク情報には、リンク先のコンテンツのURLが含まれる。

また、表示制御部308は、読み出したページ中に画像が含まれるとき、第1記憶領域にビットマップデータとして展開するときには、その画像のサイズのまま展開し、第2記憶領域にビットマップデータとして展開するときには、その画像のサイズが第2記憶領域よりも大きいときに、第2記憶領域に収容できるよう縮小してビットマップデータに展開する。

【0029】

なお、表示制御部308は、第1表示部106にコンテンツのページを表示しているとき、開閉検出部307から閉状態の検出を通知されると、第1表示部106の表示を消去し、記憶部305から同一ページを読み出し、第2記憶領域にビットマップデータとして展開して第2表示部201に表示する。

同様に、表示制御部308は第2表示部201にコンテンツのページを表示しているとき、開閉検出部307から開状態の検出を通知されると、第2表示部201の表示を消去し、記憶部305から同一ページを読み出し、第1記憶領域にビットマップデータとして

展開して第1表示部106に表示する。

【0030】

第1表示部106は、液晶ディスプレイからなり、メイン画面を形成している。例えば、 240×320 ドットの画面サイズである。表示制御部308の制御によって、Webサイトから取得されたコンテンツの各ページが表示される。

なお、携帯電話機101の本来の機能である通話に際しては、操作部306から操作された電話番号等が表示されるが、本発明の主題でないので、説明を省略する。

【0031】

第2表示部201は、液晶ディスプレイからなり、サブ画面を形成している。第2表示部201は、第1表示部106よりも解像度が低く、画面サイズは、例えば 120×16 ドットである。表示制御部308の制御によって、記憶部305に記憶されているコンテンツの各ページを表示する。

図4(a)、図4(b)は、第1表示部106と第2表示部201とに表示された同一ページをそれぞれ示している。

【0032】

第1表示部106の画面401には、コンテンツの表示情報に従い、「花ショッピング」のページが表示されている。

第2表示部201の画面402には、同一ページの文字サイズが小さくされ表示されている。「花ショッピング」の文字403は最小サイズの文字に変更されている。なお、この画面402のあさがおの画像404は、画面402に収容できるサイズであるので、画面401と同様のサイズで表示されている。

【0033】

表示制御部308は、画像404が画面402のサイズよりも大きいときには、画像404が画面402に収容できるサイズに縮小して、第2記憶領域にビットマップデータに展開し、第2表示部201に表示する。

次に、本実施の形態の動作を図5、図6のフローチャートを用いて説明する。

表示制御部308は、制御部304を介した操作部306からのユーザの操作キーの操作が項目にリンクされたURLの指定であるのを待ち(S502)、制御部304等を介して外部のWebサイトにアクセスする。制御部304は、外部のサーバから受信部302等を介してコンテンツを取得する(S504)。取得したコンテンツを記憶部305に記憶させる(S506)。

【0034】

表示制御部308は、記憶部305に記憶されているコンテンツの所望の1ページを読み出し、第1記憶領域にビットマップデータとして展開し、第1表示部106に表示する(S508)。

表示制御部308は、開閉検出部307からフリップ103が折り畳まれた状態である閉状態の検出が通知されたか否かを判断し(S510)、閉状態であれば、S602に移る。

【0035】

開状態であれば、操作部306からのユーザのキー操作を待ち(S512)、選択された項目のリンク先が記憶部305に記憶されたコンテンツ以外であるか否かを判定し(S514)、他のコンテンツであればS504に戻る。記憶部305に記憶されているコンテンツ内であれば、リンク先のページを読み出し、第1記憶領域にビットマップデータとして展開し、第1表示部106に表示する(S516)。

【0036】

次に、表示制御部308は、開閉検出部307からフリップ103が折り畳まれた閉状態の通知を受けたか否かを判定し(S518)、閉状態であれば、S602に移り、開状態であれば、制御部304を介して操作部306から操作終了の指示があるか否かを判定し(S520)、終了指示を受ければ処理を終了し、なければS512に戻る。

S602において、閉状態を通知している表示制御部308は、第1表示部の表示を

消去する。第1記憶領域にビットマップデータとして展開しているのと同一のページを記憶部305から読み出し(S604)、そのページに文字を含むとき、文字サイズを最小サイズに変換する(S606)。そのページに含まれる画像が第2記憶領域のサイズより大きいか否かを判定し(S608)、大きいときは、画像を第2記憶領域のサイズ以下に縮小する(S610)。

【0037】

表示制御部308は、第2記憶領域に記憶部305から読み出したページを変換して、ビットマップデータとして展開し、第2表示部201に表示する(S612)。

このように、第1表示部106に表示しているのと同一内容のページを第2表示部201に表示させる際、再度コンテンツを外部のサーバから取得する必要がないので、無駄な通信費や時間を消費することがない。

【0038】

表示制御部308は、制御部304を介して操作部306の操作終了の指示があるか否かを判定し(S614)、終了指示があれば、処理を終了し、なければ、フリップ103が折り畳まれた閉状態の通知を受けているか否かを判定する(S616)。

開状態の通知を受けていれば、第2表示部201の表示を消去し(S618)、第2記憶領域にビットマップデータとして展開しているのと同一ページを記憶部305から読み出し、第1記憶領域にビットマップデータとして展開し、第1表示部106に表示し(S620)、S512に戻る。

【0039】

表示制御部308は、制御部304を介して操作部306からのユーザのキー操作を待つ(S622)。項目の通知を受けると、項目のリンク先が記憶部305に記憶されているコンテンツ以外のコンテンツか否かを判定する(S624)。記憶部305に記憶されているコンテンツであれば、リンク先のページを記憶部305から読み出し(S626)、S606に戻る。

【0040】

制御部304は、記憶部305に記憶されているコンテンツ以外のとき、外部のサーバからコンテンツを取得し、記憶部305に記憶させ(S628)、S626に戻る。

上述の実施の形態では、表示制御部308がURLの指定を待つことにしており、第1表示部106又は第2表示部201に「メインメニュー」を表示させ、例えば、項目「E z w e b」の選択により、E zメニューを表示し、更に、項目「トップメニュー」の選択により、URLの指定されたポータルサイトの画面を表示するようにしてもよい。

【0041】

なお、上記実施の形態では、図3にその構成図を示したけれども、各構成要素の機能をコンピュータに発揮させるプログラムとして記載し、携帯電話機に内蔵のコンピュータにプログラムを実行させるようにしてもよいのは勿論である。

【産業上の利用可能性】

【0042】

本発明に係る携帯電話機は、情報通信分野において活用される。

【図面の簡単な説明】

【0043】

【図1】本発明に係る携帯電話機の一実施の形態の開状態での正面図である。

【図2】上記実施の形態の携帯電話機の閉状態の斜視図である。

【図3】上記実施の形態の構成図である。

【図4】(a)上記実施の形態の開状態での第1表示部に表示されたWebページを示す図である。

【0044】

(b)上記実施の形態の閉状態での第2表示部に表示された(a)と同一のページを示す図である。

【図5】上記実施の形態の動作を説明するフローチャートのその1である。

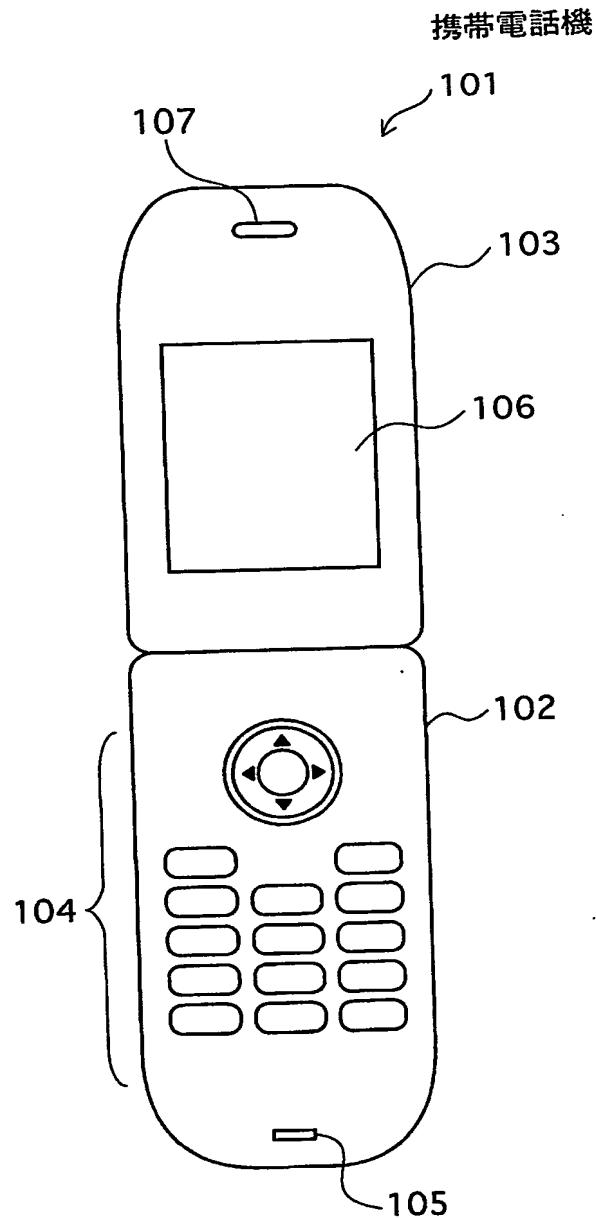
【図6】上記実施の形態の動作を説明するフローチャートのその2である。

【符号の説明】

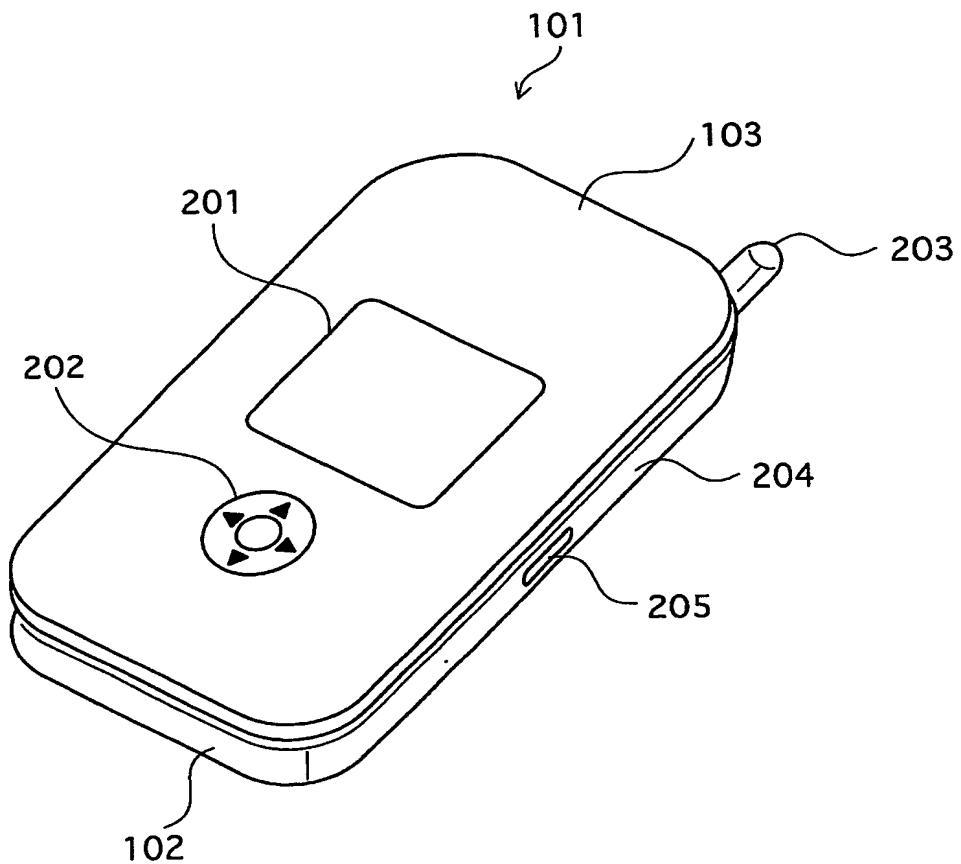
【0045】

- 101 携帯電話機
- 102 本体
- 103 フリップ
- 104 操作キー群
- 105 マイク
- 106 第1表示部
- 107 スピーカ
- 201 第2表示部
- 202 操作キー
- 203 アンテナ
- 204 本体側面
- 205 サイドキー
- 301 デュープレクサ
- 302 受信部
- 303 送信部
- 304 制御部
- 305 記憶部
- 306 操作部
- 307 開閉検出部
- 308 表示制御部

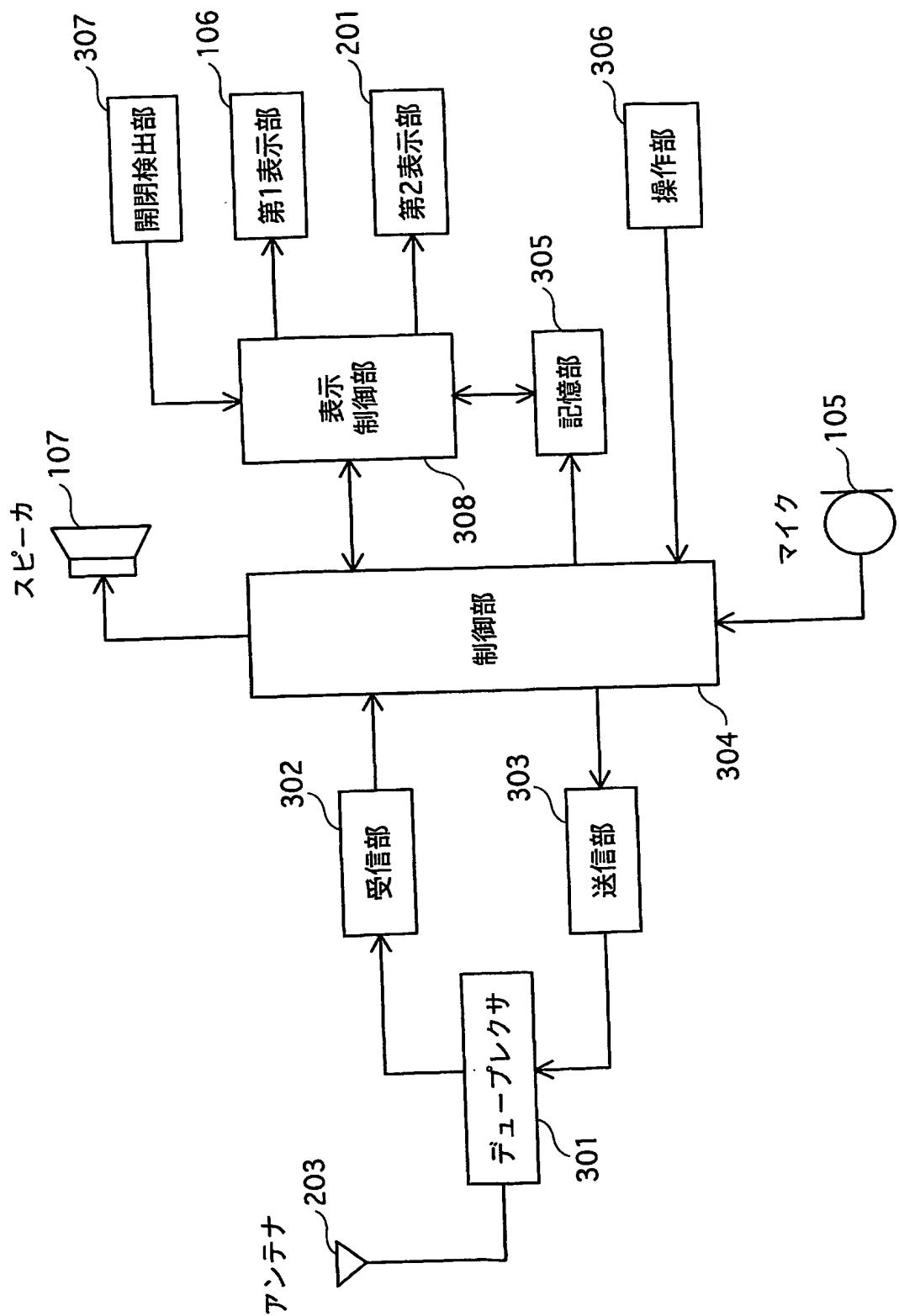
【書類名】 図面
【図 1】



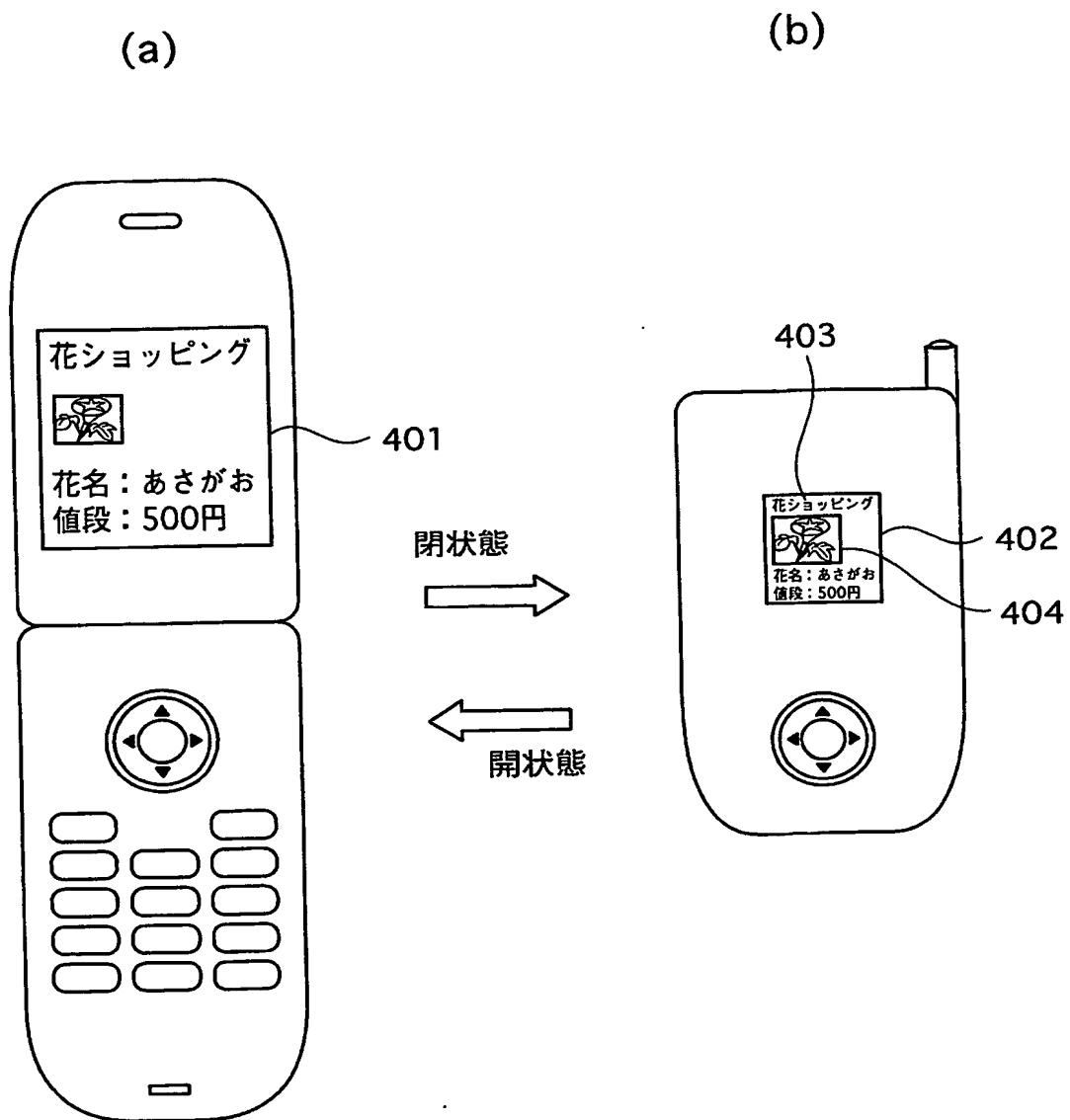
【図2】



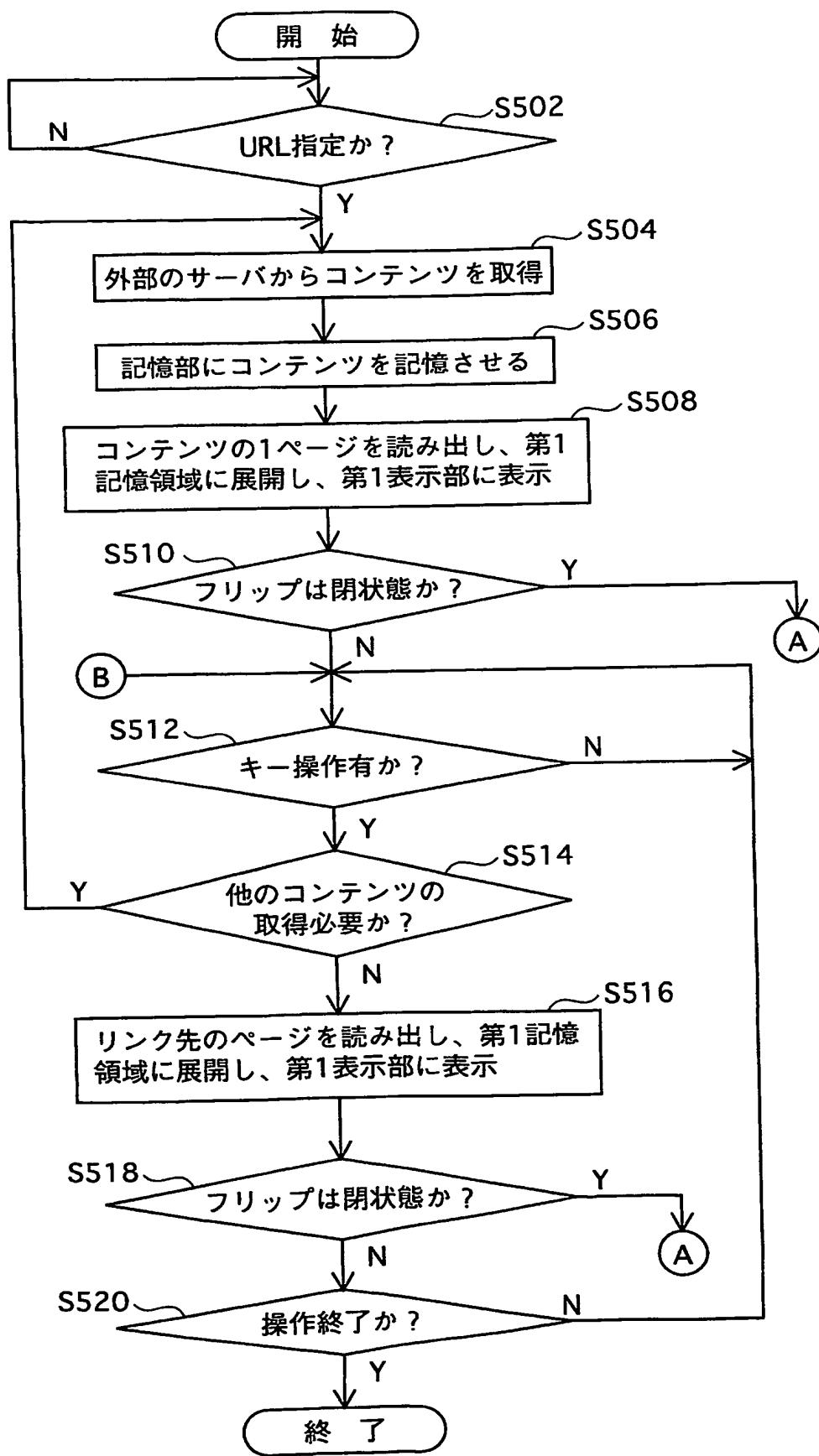
【図3】



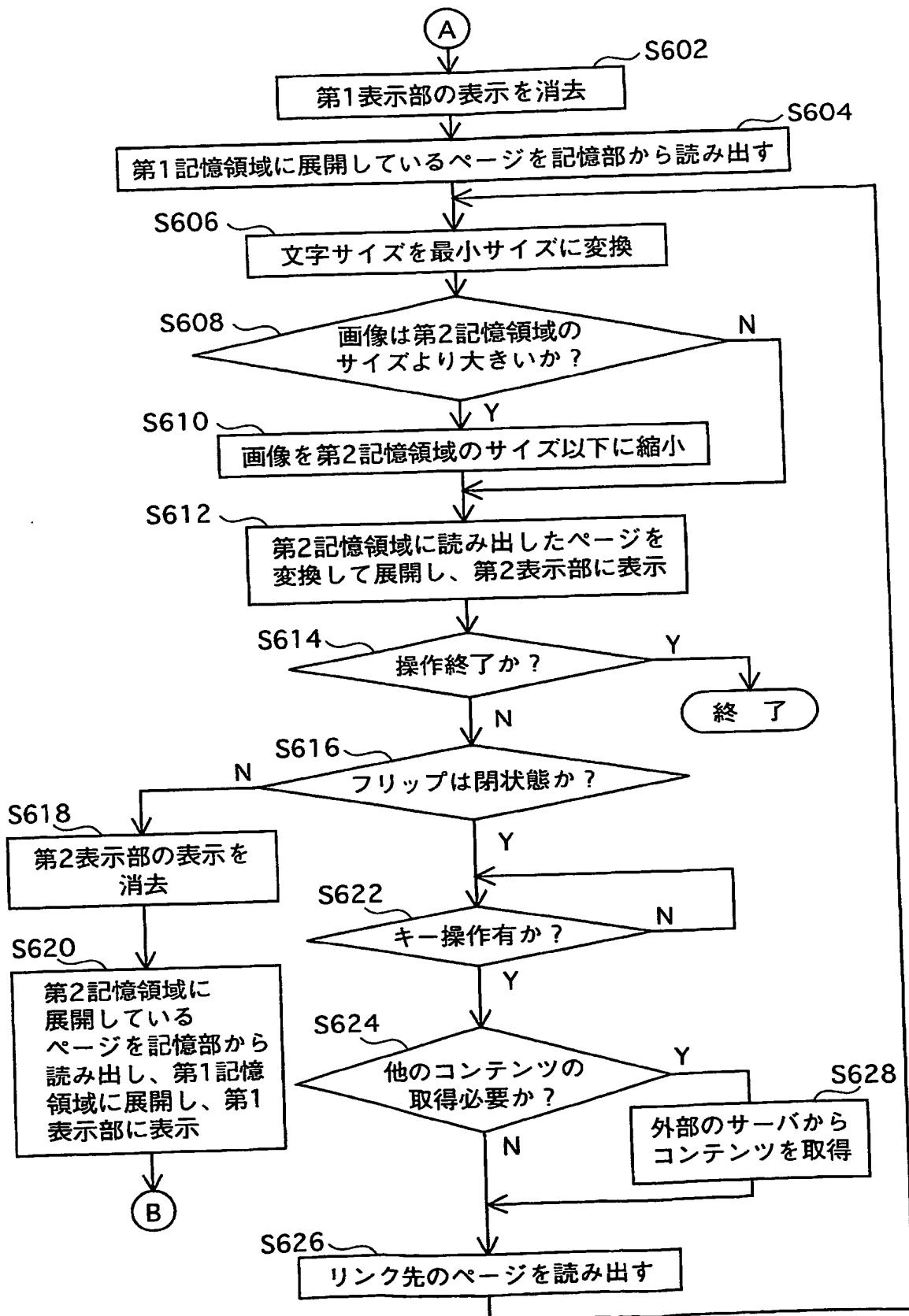
【図 4】



【図5】



【図6】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】

携帯電話機の開状態で第1表示部に表示させたページと同一のページ内容を閉状態で第1表示部より解像度の低い第2表示部に再度通信によりコンテンツを取得することなく表示する。

【解決手段】

制御部304は、外部のWebサイトから取得したコンテンツを記憶部305に記憶させる。表示制御部308は、開閉検出部307から開状態を通知されていると、第1表示部106のサイズと対応した第1記憶領域に記憶部305から所望のページを読み出し、ビットマップデータに展開し、第1表示部106に表示する。開閉検出部307から閉状態を通知されると、第1表示部106の表示を消去し、第1記憶領域にビットマップデータとして展開しているのと同一のページを記憶部305から読み出し、文字サイズを最小として、第2表示部201のサイズと対応した第2記憶領域にビットマップデータを展開し、第2表示部201に表示する。

【選択図】 図3

【書類名】 出願人名義変更届（一般承継）
【整理番号】 JJC1030173
【提出日】 平成16年 9月22日
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】
【出願番号】 特願2003-396303
【承継人】
【識別番号】 000001889
【氏名又は名称】 三洋電機株式会社
【承継人代理人】
【識別番号】 100111383
【弁理士】
【氏名又は名称】 芝野 正雅
【連絡先】 電話 03-3837-7751 知的財産ユニット 東京事務所
【提出物件の目録】
【物件名】 権利の承継を証明する書面 1
【援用の表示】 特願2003-335816の出願人名義変更届に添付のものを援用する。
【物件名】 代理権を証明する書面 1
【援用の表示】 特願2001-123182の出願人名義変更届に添付のものを援用する。

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2003-396303
受付番号 50401603112
書類名 出願人名義変更届（一般承継）
担当官 西村 明夫 2206
作成日 平成16年10月28日

<認定情報・付加情報>

【承継人】

【識別番号】 000001889
【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号
【氏名又は名称】 三洋電機株式会社
【承継人代理人】 申請人
【識別番号】 100111383
【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋電機
株式会社内 芝野特許事務所
【氏名又は名称】 芝野 正雅

特願 2003-396303

出願人履歴情報

識別番号

[000001889]

1. 変更年月日 1993年10月20日

[変更理由]

住所変更

住 所

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

氏 名

三洋電機株式会社

特願 2003-396303

出願人履歴情報

識別番号

[301023711]

1. 変更年月日

2001年 4月 4日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府大東市三洋町1番1号

氏 名

三洋テレコミュニケーションズ株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/017545

International filing date: 26 November 2004 (26.11.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-396303
Filing date: 26 November 2003 (26.11.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 04 February 2005 (04.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse